

おもてなしに置き手紙 お返しの動画作り訪問

飛行で笑顔感謝旋回



日本航空（JAL）に搭乗した宇都宮市陽北中の卓球部員が、乗務員のおもてなしに感謝の手紙を残したことが縁で27日、今度は当該機の副操縦士らが学校を訪れ、手紙をくれた生徒たちに感謝を伝えた。柔らかな心遣い、感謝の循環となった。（宇留野有貴）

手紙を書いたのは、弓下さん（13）も2年弓下莉瑚さん（13）と尾上希実さん（13）。2人は3月、松山市で開かれた全国中学選抜大会出場のため航空機に乗った。新型コロナウイルス禍で大会出場機会が減り、今のメンバーで初の全国大会だった。遠征への不安、搭乗

で気持ちは張りつめた。

この日は毎月25日の「二ツコーの日」。弓下さんらの便の乗客に「ご搭乗ありがとうございます。どうぞいります」との手書きメッセージなどが手渡された。大きく手を振って、離陸を見送るスタッフを、機内から目にしながら航空機は飛び立った。

ハプニングもあった。保安検査場。弓下さんが手に持っていた搭乗券で、ふいに指先を切った。小さなけがだったが、スタッフがすぐに、優しく声をかけながら手当てをしてくれた。

一つ一つの対応が緊張した2人の心を解きほぐし、いつもの笑顔に戻った。「心がふわふわ、浮き浮きしました」などどつづり、席に置いた。

手紙を見つけた乗務員が社内にも共有し、感謝を返そうと当日関わった乗務員ら

羽田、松山両空港の約20人が感謝を寄せるなどした。27日は、吉田訓之副操縦士（39）らが2人と一緒に動画を視聴。乗客から手紙を受け取る機会はありませんが「感謝の思いが回っていることがうれしい」と語った。弓下さんは「お礼をお返ししてくれたことで、夏の全国大会に向けても頑張りたい」、尾上さんは「初めての飛行機に安心して乗れて試合も頑張れたことを思い出した。またうれしくなった」とほほえんだ。

〔下野新聞より
～2022年5月28日〕



JAL 乗務員らが作成した動画を見詰める弓下さん（右）と尾上さん
＝27日午後、宇都宮市今泉町